

大和市におけるムナボシヒメグモ個体数の季節的変動

池田博明・谷川明男

Seasonal change of the population of *Theridion sterninotatum* in Yamato city, Kanagawa Prefecture.

Hiroyoshi IKEDA and Akio Tanikawa

はじめに

神奈川県大和市の緑地のクモ類の優占種はムナボシヒメグモ *Theridion sterninotatum* Bösenberg & Strand 1906 であった。

ムナボシヒメグモはクモを専門に捕食する小形のクモである。葉上や樹皮上を徘徊し、他のクモのすきを狙って粘球糸を投げかけて、捕獲する(新海 1982)。しかし、その生活史は明らかではなかった。私たちは大和市のクモ相調査をしたときに、合わせて本種の月別の個体数調査も行った。調査結果は 1994 年 4 月 24 日に東京蜘蛛談話会例会で報告した。幼体のサイズ差を調査する計画もしたが、果たせず、月別の個体数の結果だけを報告することにした。

方法

大和市内の緑地 9 ケ所(桜の森, 大谷家の屋敷林と竹林, 植林地, 墓の上, 泉の森カシ林とクヌギ林・コナラ林, 上和田野鳥の森)を調査地とした。私たち二人で樹叢を 5 分間ピーティングして落下したクモを捕虫網で受け、液浸し、同定した。他に下草を決まった回数のスweeping をしてクモを採取したが、足元の草むらからは、ムナボシヒメグモは毎月 2-4 頭しか採れず、ピーティングの結果に影響するほどではなかった。

調査日は 1993 年 3 月 21 日, 4 月 18 日, 5 月 23 日, 6 月 20 日(一部は 7 月 4 日), 8 月 2 日, 8 月 30 日, 10 月 24 日であった。

結果と考察

調査地全体をまとめた結果を表 1 とグラフ 1 に示した。

成体雄のピークは 5 月下旬~6 月下旬に、成体雌のピークは 6 月下旬にあった。成体雄は 8 月下旬には見られなくなった。また、初春には越冬幼体が生息しているが、これらは成長して 6 月下旬にはいったん減った。それ以降に増加する幼体は 6 月産卵された卵から出のうし、生育したものだろう。晩秋 10 月下旬には相当数の幼体(227 頭)が見られたが、3~8 月の成体数の

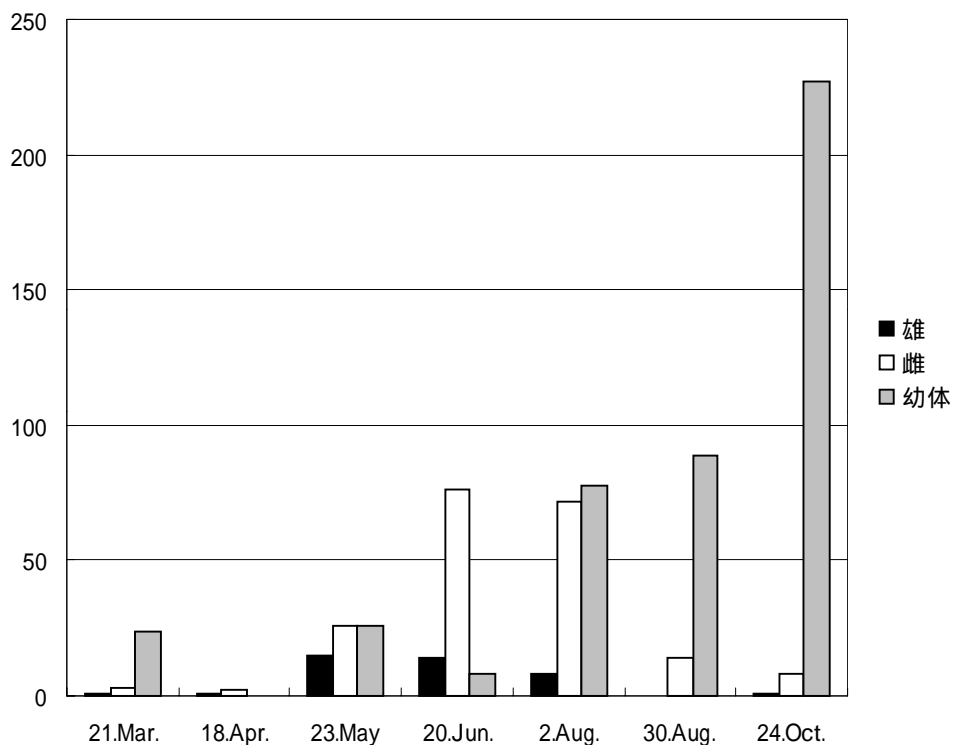
総計 240 頭とほぼ等しいので、晩秋の幼体の多くは幼体のまま越冬すると思われた。

雌雄および幼体の消長から推測すると、本種は夏に 1 回のピークを持つ年一世代のクモと判断された。

表 1 . ムナボシヒメグモ個体数の季節的変動 .

(表の上 3 行はピーティングによる, 下 3 行はスパーピングによる頭数, 数の記入の無い欄は 0 頭)

月日 date	21.Mar.	18.Apr.	23.May	20.Jun.	2.Aug.	30.Aug.	24.Oct.
雄	1	1	15	14	8		1
雌	3	2	26	76	72	14	8
幼体	24		26	8	78	89	227
雄				1(4,July)			
雌			1	3	1	2	
幼体		1	1	4	1	4	



グラフ 1 . ムナボシヒメグモ個体数の季節的変動 .